

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年11月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102256		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム やまびこ		
所在地	広島市安佐北区三入六丁目22番11号 (電話) 082-810-1157		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470102256-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470102256-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年10月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

共同生活の場であっても、お一人お一人の「個」を大切に、「入居者さん」ではなく「一人の人」としてこれまでの人生・現在の状態をベースにし、「入居者さん」の「今」を大切に、そこを出発点とした生活支援を心掛けています。

また、運営理念である『心の輪を大切に笑顔のある生活の場を創り、安心とやすらぎを提供します。』の実現のために、入居者さんの表情・行動は私たちの介護の心・技を写す鏡としてとらえ、管理者・職員で日々頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

可部から三入へ新築移転して来て1年余。可部では地域に受け入れられ、応援されていた事を思えば今は時間が掛ってもどんな事業所なのか判って貰う努力をされている。入居者の家族も、取締役の女性の見識が高く、一人ひとりを洞察する力が深く、介護とか介助はどうあるべきかを深く見透している。そこから出てくる言葉は認知症介護のリーダー格である東京のセンター方式から発せられるスキルと同じ言葉が出てくる。「個」と「今」を大切に一日でも長く自分の人生を楽しみ、笑顔で暮らせるように介護技術や介護意識の向上を徹底され、職員の遣り甲斐を感じ取れる。介護のプロとして資格以上の見識を求めて勉強させ実力をつける取り組みを「理念」設定の議論する処から出発して、年度目標を立て、振り返りを要求し、改善され万全を期す。職員は生きいきとして明るくて優しいとどの家族も認めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホーム内に提示するとともに、理念を記した携帯カードを作り、全職員に対して配布している。また、ホーム内での勉強会等で理念とその理念をふまえた上での介護についての振り返りを行っている。理念の実践のために、新年度に管理者と全職員で1年間の運営目標を協議し、実践に取り組んでいる。	全職員の会議で今年度の目標を決定し、実践している。日々の業務に入る前に笑顔で元気、意欲を持って精励する心構えを確認する習慣がある。本来個人的な気構えだが、チームとして確認しながら始める。勢いが違う。理念をチームの一員として自覚し、携わり、振り返る。プロ集団が心の輪を繋いで介護に当る。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している。	自治会に加入することは規約上できないとの事で参加できないが、町内子供会開催の秋祭りにはホーム内に神輿で健康祈願に来てもらい、入居者さんも参加している。	この場所に、新築移転してくる前は町内会に加入し、一斉清掃や行事に参加して、気持ちの通じ合う遣り甲斐のある交際ができていたので、移転後とあまりの違いに戸惑いがある。町規約が改正されるまでは、少しずつ心通い合わせる環境作りに動しむ他ない。此処のチームならいずれ自治会に受け入れて貰える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が認知症アドバイザーとして登録し、講師依頼を受け、地域包括支援センターと協同して行っている。ホームページ・事業所のパンフレット等で相談の受付を随時行っている。福祉の職場体験事業所として登録し、地域の方を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一度の定期開催を厳守し、事前に内容を検討し、充実した会議になるように努めている。前回の内容で報告が必要なものについては、次回の会議にて現状報告し、参加者の方からアドバイスや質問を頂いている。当日参加されなかった方にも議事録を送付し、内容を把握して頂いている。	定期的開催され、出席者の所属と氏名が明記されているので、欠席が出来ない。協議内容も明示されている。前回の課題事項は丁寧に説明され、発言内容も多岐に渉り、実効が上がっている。家族の参加者がもう少し多いと良いと思われる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	安佐北区介護支援専門員連絡協議会へ参加し、研修にも参加している。運営推進会議参加への案内を送付し、出席して頂き、取組み・現状報告と共に、アドバイス・新しい情報を得ている。	入居希望者の紹介等で行政担当者との連絡が多いのかと思ったが、その点はケアマネの方からの紹介が実際には多いそうである。地域包括支援センターとの連絡・連携は密で協力関係は厚く維持されている。当所の代表取締役は若いけれど、理論的に見識は高く、情熱を持って事業所の外へ出て地域の指導者としても貢献している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践のため研修の参加と共に、研修発表を通して理解を深めている。</p> <p>ケアカンファレンスでは個々の入居者さんに適した介護計画を取り入れている。</p> <p>玄関・居室ではセンサーを設置し、施錠しないケアを目指している。</p>	<p>身体拘束はしないマニュアルが掲示してある上に、外部研修・内部研修共に実効が上がっており、徹底している。玄関ホールや階段、エレベーター、非常口は安全確保上の処置がしてあり、家族から見ても安心な処置に納得させられる。入居者が外に出たい思いに対しては車で近所を一周してサービスで納得され落ち着かれるという。「個」を大切には徹底している。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者・職員共に研修に参加し、虐待についての知識を学び、統一したケアに活かしている。</p> <p>事業内においては、言葉遣い・接遇に関して、管理者の助言・職員同士がお互いに注意し合い、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修に参加し、制度について理解をしている。</p> <p>パンフレットを施設内に提示し、必要がある入居者さんにはご家族・関係者の方に制度の説明を行っている。現在2名の方が制度を利用されている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、契約書・重要事項説明書を読みながら分かりやすいように具体例をあげ、説明している。内容に変更が出たら都度説明文章と資料を送付し、理解・確認をして頂いている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者さんに関しては、正確な訴えが困難なことがあり、表情・行動・言葉から不満や希望をくみ取るように心掛けている。</p> <p>ご意見箱の設置。</p> <p>苦情相談窓口として職員担当者・外部への受付窓口を記した一覧表を契約時に説明し、差し上げている。</p>	<p>「心の輪を大切に」の理念通り、職員は入居者の意志や思いを動き・表情で読み取り、言葉掛けで確かめ、遣りたいことを把握したら寄り添って思いを実現させる。家族もお友達も来易い、入り易いと評判通りで、明るく気易い職員に何でも話せる感じがする。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティング・勉強会等の場で意見を聞き、業務に取り入れている。各チームリーダーと管理者の話合いの場を設け、入居者・職員の現状の把握と問題点から改善策を考えている。</p>	<p>職員の話では、風通し良く伝わってくる話が当番で勤務しているチームに何でも全て伝わり、気持ちも伝わる。専門性豊かな判断を為し、チームとして実行できる実力を感じ、それが身に着く感覚がプロとしての自覚を高め、益々やる気も湧く。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>ゆとりのあるシフトで休日出勤・残業の軽減に努めている。経験や能力に応じて手当に差を付けている。慰安旅行（年1回）を計画し実行している。個人の場合であっても資格取得のための研修・試験の日はシフトの調整をしている。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>個人の能力に適した研修に参加し、偏りがないように努めている。参加職員に負担がないように研修日は業務扱いにしてる。各フロアにチームリーダーを定め、育成に取り組んでいる。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>日本認知症グループホーム協会、宅老所・グループホーム全国ネットワークへの加入と独自のネットワークに加入し、研修の開催・勉強会を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の見学・相談時には、安心して頂ける雰囲気作りに留意し、ご本人さんが話しやすい場を心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の見学・相談時には、共感の姿勢を大切にしながら、グループホームを理解して頂き、安心して話しをして頂ける雰囲気作りに留意している。独自のアセスメント表を使用し、介護についての意見や要望をご本人・ご家族から情報を収集している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>かかりつけ医の継続、他のサービス利用として、訪問歯科・訪問看護・マッサージ・理美容師の説明と紹介をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人さんの得意とされる仕事をお願いし、一緒に行い、感謝の言葉を伝えてご本人に自信を持って頂く。動作介助も全介助ではなく、個々の方の残存能力が活かせるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>介護計画の中に家族の希望・意見を取り入れ、施設側だけのプランにならないように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族会を設置し、家族と利用者さんが一緒に過せる機会を設けている。その他に、定期的な状況報告・写真・グループホームでの行事参加のお誘いの手紙を送っている。外泊・外出のお勧め。</p>	<p>家族ばかりでなく、入居者の昔馴染のお友達も『来易い、入り易い』事業所らしいので、馴染の方が訪ねて来易く、ひと時の歓談と大笑いが他の入居者も巻き込んだ風景になることもある。ホールは華やいた雰囲気になり、職員共々みんなが元気を貰う日があるという。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気が合う人と席を隣にしたり、皆で出来るレクリエーションを考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院された入居者さんの病院への面会。また、家族の方に連絡を取り、状況をお聞きして相談を受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員の思いや都合で入居者さんに対応することがないように皆で検討しご本人の思いを支えるパーソンセンタードケアを目指し、サービス計画に取り入れている。	入居者が今、何をしたいのか、その思いを、表情や動きで知る上に潜在力になっている事がある。入居する前のアセスメントでケアプランに必要な色々な事柄以外に本人のやってきた思い、やりたかった思い、どんなことをしたいかの思いまで聞き取っているのので、どんな思いが的外れなことのない「読み」が正確になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に基本情報シートにより家族の方から得た情報や病院・介護支援専門員からの情報を活用し、把握している。また、日常生活の会話の中で入居者さん自身が話して頂けるよう、回想法を取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	サービス計画に沿った生活の支援と見直し時のカンファレンスまでの様子を介護記録・連絡ノートで情報が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>サービス計画書の中に（本人）・（家族）の生活に対する意向を取り入れるため、事前に聞き取りを行い、介護計画の変更・見直し時にはカンファレンス・モニタリングから、個々の方を活かせるプラン作りを心掛けている。</p> <p>医療面は担当Drに相談している。</p>	<p>アセスメントを基にカンファレンスを経て慎重にケアプランを作成し家族の承認を得て日々のケアが実践されているが、日々の実践記録は詳細に記録されて当番職員に引き継がれる。日々の細かな変化も引き継がれる。それが定期的にモニタリングで更に見直され、変更事項は家族の承認を経て即日実施され、詳細な記録が生かされる。</p>	
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の介護記録簿を作成し、担当者を決めて1日の流れを午前・午後・夜間と分けて記録し、状態が分かりやすいようにしている。</p> <p>介護記録簿と共に介護計画書を綴り、内容を確認できるようにしている。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ターミナルケアの取り組み。</p> <p>ペット同伴の入居の受入。</p> <p>状態に合った食事の提供。</p> <p>（腎臓食・嚥下レベルに合った食事形態）</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のスーパーでの買物・理美容の利用・ボランティアの訪問（踊り・演奏等）。</p> <p>地域のお寺の住職さんに、おおむね月1回法話に来て頂いている。</p>		
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診診断</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居されるまでのかかりつけ医を希望される場合は、そのまま継続できるように家族の方に同行してもらい、担当医との連携をお願いしている。</p>	<p>協力医療機関で定期的に健診を受けている。掛り付け医を希望する方は家族の協力を得て検診を受け、協力医との連携を得て往診を継続して貰えるようにしている事と事業所として早期治療で感染しないように特に配慮されている。何よりも先ず職員を含めた健康維持を大切にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>受診病院の看護師さんと連絡ノートにて現状報告・相談・助言をもらっている。訪看さんの来所時には状況報告を都度行っている。状態の変化時は訪看さんの携帯電話で24時間連絡が取れ、指導・助言を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院されたら管理者・職員が様子見を兼ねてお見舞いに行き、担当医師に病状の説明を受けたり、退院後の生活について助言を受けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に「重度化した場合における対応に関する指針書」により説明し、理解して頂き、同意書にサインを頂いている。終末期に関しては担当医・訪問看護師と連携しながら家族と話し合いをし、「終末期生活のための契約書」にて方針を共有している。</p>	<p>職員全員が真剣に貴重な体験を3度もすることになったことがあり、命ある内の介護に対する気構えは一段と深く覚悟されている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>「事故発生時対応マニュアル」を作成し、職員に配布して対応できるようにしている。研修への参加で実践力を身につけている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>防災マニュアルにより避難・誘導方法を分かりやすく表示し、職員にも配布している。防災管理者に協力を得て日中・夜間を想定した訓練を行い、外部の方の評価・アドバイスを受けて、現状に適した避難訓練を行っている。</p>	<p>2ユニットのグループホームの特性を生かし1階はより重度化した方達の個室の集まりとし、2階は急げる方達の個室が当てがわれているので、それなりの避難誘導が考慮されている。風向きによっては交通量の多い国道を渡って行かねばならず、目前の地域の方や通行人の協力も得る呼びかけ方法を考察し、命を守り切る態勢の整備は喫緊の課題となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入社時に入居者の個人情報の守秘義務に関する契約書を取り、ホーム外への記録の持ち出しを禁止している。言葉遣い・対応については研修へ参加し、研修資料を全職員へ配布し、意識の統一を図っている。	情報の遣り取りでついうっかりと配慮を欠く場面も日常良く見受けられる事なので、言葉には二重三重に気配りをする習慣を身に付けるようお互いに気を付け合っている。感情が昂らない様にもチームとして気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介護者が入居者の気持ち・能力に合わせた個別対応・声かけをし、表情・行動から思いをくみ取る支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望に応じて外出したり、入居者のペースに合った介護をしている。それに合わせた業務内容・時間の調整をしている。 (例) 朝の起床時間・消灯時間・食事時間・役割り・能力に応じた個別レクの実施		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居時に持って来られた物を大切に、好みを知り、好まれる衣類を用意している。 朝の起床時には、ひげ剃りのお手伝いをするなど、今までされてきた習慣を大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	希望されるメニューを取り入れたり、食べやすい調理法・味付け・盛り付けを工夫し、個別対応している。 無理強いせず、得意とされる事を一緒に行っている。(簡単な下準備・テーブル拭き・下膳)	食べ易い工夫がなされ、味付けも絶品でとても二人で調理されたとは思えない食事を経験した。個別対応もされているので大変なことを日々熟して居られる。入居者も手伝うようだが混乱もなく整然と要領よく手伝っている。下準備でも簡単な手作業は手伝っており、長年の腕前は落ちていず、機嫌よく滑らかに手を動かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者さんの食事量・水分量を個別に把握し、常食からミキサー食・粥まで用意し、個々の対応をしている。食事量の少ない方には家族の方に好物を教えて頂いて、補食品の工夫をしている。水分が飲みにくい方には、ゼラチンを使用して飲みやすいゼリー状にして提供している。(紅茶ゼリー・エンシュアゼリー)		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけ・見守り・介助等、入居者さんに応じた口腔ケアを実行し、夕食後は義歯を義歯洗浄剤で洗浄・除菌している。訪問歯科を導入し、入居者さんの口腔内検診と共に口腔ケアについての指導・助言を受けている。(1回/月)		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンに合わせ、声かけ・誘導をしてトイレ・ポータブルトイレでの排泄を促している。安易にリハビリパンツは使用せず、日中は布パンツと尿パットで対応している。排泄パターンを知るために、記録を確実にしている。	トイレが広く、車椅子で入った方を全介助しても余裕がある。運悪く失敗した方にも手早く綺麗にして挙げられる仕組みがある。布パンツと尿パットで対応している。排泄パターンも狂いがちなのに良く対応されている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	バランスの取れた食事作りに留意し、水分量も都度記録し、少ない方には好まれる飲み物を出している。毎朝の体操・ストレッチ・生活リハビリなど個々の能力をみて行っている。排泄ノートで排便状態を把握し、Dr指示のもと緩下剤の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	要介護度が4から5の方の割合が高く、介助を必要とされる方がほとんどのため、職員の確保に限界があり、自由入浴は困難。入浴日以外は足浴を行い、リラックスして頂いている。	週3回の入浴日があることは家族も喜ばれており、足浴は入居者に好評でゆったりとリラックスできる。個浴も介助が必要なので衣服の着脱など思った以上に時間がかかっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の睡眠状態を見て朝の起床時間を調整し、体調に合わせて昼寝をすすめ、個々の対応をしている。 夜の消灯もご本人の気持ち・希望により行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の説明書と薬と一緒に保管し、薬の内容を確認している。 不明の薬については都度病院に確認している。 副作用が認められたら担当医に上申・相談し、指示を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	◎役割り→洗濯たみ・下準備（調理） ◎嗜好品→タバコ・酒・ヤクルト・果物 ◎楽しみごと→ビデオ・外出（花見・紅葉・外食）・ボランティア訪問（踊り他） ◎気分転換→レクリエーション・パズル・カルタ・積木・塗り絵・書道・読書・編み物他、状態に合わせて用意している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入浴日以外の日にドライブをしたり、天気の良い日は庭に出て草花・景色を見て、自然に親しんで頂いている。 ご本人さんが希望される場合は、家族の方に外出の協力を呼びかけている。	日用品の買物に近くの店に出掛けることもある。目前の国道は時間帯によってはひどい渋滞が何時も起きていて横断は困難。裏手の川沿いは現在工事中である。ドライブに出て安全で広々していて浩然の気を養う好適地は数多い。花畑が拡がり手入れの行き届いた園地を訪ねた時の笑顔が並んだ写真を見ると皆さんと一緒に掛けて良かった、楽しかった気持ちが判る。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所有金（財布）を持っていないと不安な方、ハンドバッグが常に傍にないと不安な方、それぞれに合わせて不安感を持たれないように対応している。 外出時は出来る方は、ご本人が買物・支払いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話希望時には職員がダイヤルしてご本人に渡している。 家族・知人から手紙が届いた時はご本人に渡し、代読が必要な方は代読している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な家具・生活用品を置き、また、空間には絵画・入居者さんの作品を飾り、馴染みやすい環境作りをしている。 エアコン・床暖房・空気清浄機・加湿器を設置している。 庭では季節により花・野菜を栽培し、見て感じ味わって頂いている。	適度な広さの食堂兼広間は入居者の作品展示場所であり、作品作業所であり、談話室であり、お話を聞いたり演技を見たり、フラダンスのステージに成ったり色んな会場になる。温度と湿度が程良く保たれ、床暖房は伸び伸びできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同空間を広く設け、思い思いの場所で過して頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に持って来られた使い慣れた物やご本人が好まれる物を置かれたり、それぞれ入居者さん・ご家族が考えられた独自の居室になっている。	規格以上に感じられる広さの個室は南向きの広い窓から日光が入って明るい。ベットとカーテンは備え付けだが、整理ダンスなどは持込である。エアコン付で気持ち良く過ごせる私室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	◎トイレの場所が分かりやすいように「便所」「トイレ」と貼紙をしている。 ◎トイレを広くする事で安全に介助でき、自立歩行が高められるようにしている。 ◎手摺り（廊下・トイレ・自室・リビング・浴室・脱衣場）を設置し、残存能力を活かした介助を行っている。 ◎リビングを中心にトイレ・洗面・浴室・台所に続いているので迷われる事も少なく、行動がスムーズに流れている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやまびこ

作成日 平成24年12月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域密着型サービスとして新しい地域の中に溶け込むための取り組み	施設ではあるが、地域の一員として認めてもらい、交流ができる様にしたい	①馴染みの関係を築くための第一歩として公共の場（道路・バス停）の清掃を続ける ②地域包括支援センターと協働し、認知症専門施設としての力を活かすため、研修会等を開催する	①6ヶ月～1年間 ②1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。